

KIMOTO REPORT

株主通信 第2四半期

第58期 2017年4月1日▶2017年9月30日

contents

- 株主の皆様へ
- トピックス
- 特集 フィルム事業
- 決算ハイライト
- 会社概要
- 役員一覧
- 株式の状況
- 株主メモ
- 1株当たり配当

株式会社きもと

証券コード: 7908

株主の皆様へ

株主の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
2018年3月期第2四半期連結累計期間(2017年4月1日から9月30日まで)の決算をご報告申し上げます。

当社グループは、フラットパネルディスプレイを中心とした事業からIoT関連企業へのビジネス進化を目指し、2017年3月期より第四次中期経営計画(2017年3月期~2019年3月期)を推進しております。フィルム事業、データキッチン事業、コンサルティング事業の3つに事業を再編し、付加価値及び収益力の向上を目指します。本年度は同計画の2年目となり、フィルム事業は引き続きIoT技術に使用される高付加価値品の販売強化、データキッチン事業は3Dデータ活用を各業界へ推進し、関連ソフトウェアの開発に注力、コンサルティング事業は製造業向けコミュニケーションデザイン製品の開発および販売を展開しております。

北米工場製造品は、IoT関連製品を中心に堅調に推移しました。新設したコンパクトな製造ラインを活かし、事業の更なる拡大を図ります。また、ウィンドウフィルム製品は、欧州市場で好調に推移しました。しかしながら、IoT関連製品向け高付加価値品の販売において生産調整の影響があり、回復傾向ではあるものの全体では低調に推移したことにより減収減益となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は7,351百万円(前年同四半期比5.6%減)、営業利益は176百万円(同20.2%減)、経常利益は230百万円(同262.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は156百万円(同424.7%増)となりました。

半期の折り返しは、ほぼ予定通りの成績で決算を終えることが出来ました。後半戦に失速した前事業年度を反省し、ぬかりなく事業展開を行ってまいります。

きもとグループの現事業年度のテーマは「楽しく、スマートに、勝ち」といたしました。

各グループのトピックスをご報告いたします。

- 1) KAG(スイスきもと)が10年以上ぶりに黒字化の見通しで、自社製造品販売による黒字化は20年以上ぶりとなります。約8年を費やした欧州事業の再構築が成功しております。
- 2) KTI(アメリカきもと)の新規製造ラインが2017年8月より稼動しました。アメリカを中心とした、新規開発依頼への対応が可能となり、将来へのユニークな製品開発案件が多く期待されます。

ます。研究員も増員し、創業社長の意志である「世界最大のマーケットでアイデアを頂戴し、世界に貢献できる製品を開発・製造する」が本格的にスタートいたしました。2018年は期待感でいっぱいです。

- 3) SKI(中国瀋陽きもと)は、事業をデータキッチン事業およびコンサルティング事業に集中すべく、事業の再構築を進めています。特にデータキッチン事業は、高品質・高付加価値事業へと方向を定め、従来受注の大幅な見直しを行った事により、売上は低迷していますが、2018年中盤以降に、必ず次世代に対応する事業内容に変化いたします。
- 4) KMT(きもと日本)は、2009年からスタートしたワークフロー改革は自然と働き方改革につながり、その結果、損益分岐点は、人員整理をする事なく25%超低下しました。浮き沈みの激しい事業展開のなかで、勇気を持って実施した不良資産処分、不必要借入金返済等を終えた結果、企業体質は筋肉質になりました。
- 5) KIMOTOグループとして、2022年を目指し、全てのグループで「週休3日」を進めます。週5日40時間勤務を、週4日32時間勤務にいたしますので、20%以上の効率化が必要となります。幸いにもゼロからの出発ではなく、過去8年の改革で経験した事が基礎となり、AI、IoTを利用して進めてまいります。

「KIMOTOファン」は、お客様、お取引先様、株主の皆様、そしてKIMOTOグループ従業員を含めての表現とさせていただきます。

KIMOTOファンの皆様からご支援をより頂戴できるよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長
木本和伸

北米工場※に新ライン完成！ コンパクトコーターで実現する 小ロット多品種の製品開発

※アメリカジョージア州にあるKIMOTO海外関連会社
Kimoto Tech, Inc.の製造工場

今年10月、Kimoto Tech, Inc. (以下KTI) にコンパクトクリーンコーター「LC3 (エルシースリー)」が新設されました。きもと所有の従来機最大1,600mm幅に対し本機は800mm幅、三重工場と同等のクリーンレベル1000の環境を備えます。これにより新製品の開発依頼の多いアメリカで、迅速な開発と初期の小ロット生産が可能になりました。今後KTIで最新の市場ニーズに応じた開発を行い、量産は需要国である東アジアに近い三重・茨城工場で行うことにより、各工場の役割分担を明確にし、各々のパフォーマンスを最大限に引き出します。

また国内では試作機であったコンパクトコーター「アポロ」を生産機として使用開始。12月には改良工事を予定しており、小ロット品の高品質・低コストな生産が可能になります。

コンパクトコーターのメリット

塗工幅、ラインの長さが短いため小ロット品を材料のムダなく生産可能・少量の材料で試作が可能

LC3  **800 mm**
塗工幅 MAX

- ・基材 PET、アクリル、TAC、PC等
- ・速度 5-30m/min
- ・塗工 ダイ、グラビア、バー
- ・乾燥 40-150℃
- ・硬化 UV 240W/cm 2灯 (窒素パージ可)
- ・生産 連続生産

- ・レベル1000のクリーン環境
- ・最新の市場ニーズに対応した新製品開発
- ・クリーン化による従来品の品質向上



10月3日KTIにてLC3オープニングセレモニーが開催されました。

日米で連携して
新製品を開発

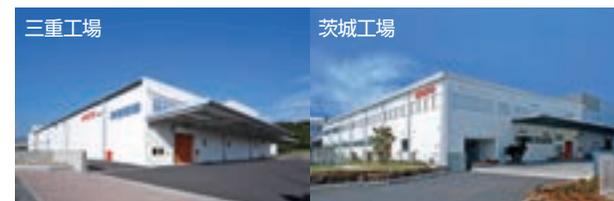


アポロ  **300 mm**
塗工幅 MAX

- ・基材 PET、アクリル、TAC、PC等
- ・速度 2-40m/min
- ・塗工 ダイ、グラビア、バー
- ・乾燥 40-150℃
- ・硬化 UV 160W/cm 2灯 (窒素パージ可)
- ・生産 断続生産

- ・レベル1000のクリーン環境
- ・最小A4サイズ、ロール幅100mm×5mから試作可能
- ・生産コスト30%削減 (当社量産品比)
- ・今期6月より車載用高付加価値製品を生産開始

三重・茨城従来機  **1,600 mm**
塗工幅 MAX
コンパクトコーターでの
開発品を大量生産



第四次中期経営計画の柱となる3事業、今回はフィルム事業をご紹介します。

データキッチン

ビッグデータ編集・加工事業

コンサルティング

働き方・仕組み創り支援事業

フィルム

機能性フィルム開発・製造事業

キーワードはFPD to IoT

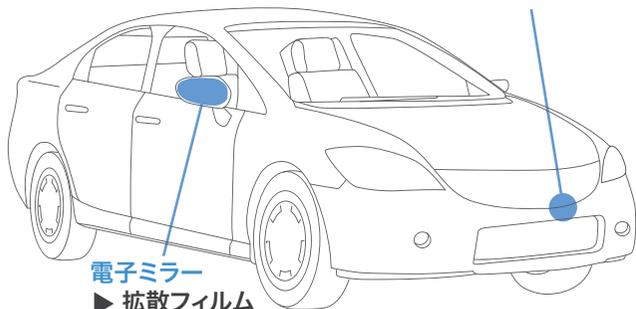
KIMOTOのフィルム事業は創業以来、時代を象徴する様々な製品に貢献してまいりました。PETフィルムに表面加工を施す技術を極め、プリント基板や液晶ディスプレイ、その後はタッチパネルへの変化にも柔軟に対応し、各種業界に多種多様な製品を送り出してきました。現在では、IoT関連市場の急速なニーズの変化に応えるべく、フラットなディスプレイからフレキシブルなディスプレイへと、新製品開発を積極的に行っており、実際に採用いただいております。またIoT関連のフィルムだけでなく、さまざまな機能を持たせたWindowFilmも引き続き開発に努めており、2017年初めには新製品を発売しております。

IoT関連製品

自動車

ボディ

自動運転システム
▶ 遮光フィルム



車内



家電

LED照明 ▶ 光拡散フィルム



冷蔵庫 ▶ ハードコートフィルム



WindowFilm

GlassLACE

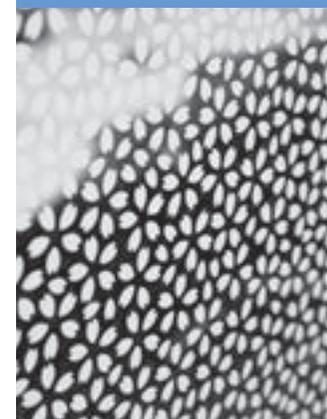
≫ GlassLACEとは

視線を遮りながら空間を演出する、ガラス装飾用デザインフィルムです。透明部分にハードコート層があるため、耐久性に優れています。

施工例



新柄 桜柄小紋のグラデーション



■ GlassLACEに新柄登場

GlassLACE @m(アット・エム)シリーズに新柄が発売になりました。6つのカテゴリー88種類の豊富なデザインパターンがあり、好評いただいております。

決算ハイライト

(単位:百万円)

	2016年3月期 第56期		2017年3月期 第57期		2018年3月期 第58期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期(予想)
売上高	8,320	15,597	7,783	15,606	7,351	16,500
営業利益	△82	△508	220	211	176	600
経常利益	△45	△522	63	292	230	600

(単位:百万円)

	2016年3月期 第56期		2017年3月期 第57期		2018年3月期 第58期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期(予想)
親会社株主に帰属する当期純利益	△155	△1,640	29	409	156	450
総資産	27,454	25,345	25,152	25,366	26,030	
純資産	21,426	19,240	18,830	19,229	19,521	

会社概要

2017年9月30日現在

名称	株式会社 きもと
所在地	〒338-0013 埼玉県さいたま市中央区鈴谷四丁目6番35号
設立	1961年2月9日
事業内容	・電子・電気機器用、プリント回路用、光学機器用、情報記録用、環境測定用等各種フィルムの製造及び販売 ・コンピュータ出力用、設計用、印刷用、サイン・グラフィックス用等各種フィルム並びに用紙の製造及び販売 ・航空写真及び諸種顔面の撮影並びに複製に関する事業 ・測量、デジタル写真測量、地図編集、地図印刷 ・コンピュータ情報処理サービス並びにソフトウェアの開発及び販売 ・農産物の生産、加工及び販売 ・酒類の販売 ・コンサルティング業務
従業員	533名(単体)
取引銀行	(株)三菱東京UFJ銀行 (株)みずほ銀行 (株)りそな銀行 他
営業拠点	[国内]札幌、仙台、新宿、名古屋、大阪、福岡 [海外]台北(台湾)、蘇州(中国)、深圳(中国)
工場	三重県(いなべ市)、 茨城県(古河市)
研究所	埼玉県(さいたま市)
海外関連会社	KIMOTO TECH,INC.(米国)、KIMOTO AG(スイス)、 瀋陽木本実業有限公司(中国)、木本新技術(上海)有限公司(中国)

(注) 当社は、2014年11月19日開催の取締役会において、経営資源の集約及び経営の効率化を図るため、連結子会社である瀋陽木本実業有限公司(中国)及び木本新技術(上海)有限公司(中国)について、前者を存続会社として合併することを決議しております。

役員一覧

2017年9月30日現在

代表取締役社長	木本 和伸	取締役	丸山 光則
常務取締役	笹岡 芳典	取締役	宮田 久美子
常務取締役	下里 桂司	取締役	太田垣 章子
取締役	鈴木 亮介	常勤監査役	湊 加津美
取締役	Miguel Noe Leal	監査役	帖地 マリ子
取締役	岡本 孝志	監査役	原口 純一郎

株式の状況

2017年9月30日現在

発行可能株式総数 90,000,000株
発行済株式の総数 54,772,564株
株主総数 6,971名



大株主

株主名	持株数[千株]	持株比率[%]
きもと共栄会	5,922	10.81
株式会社精和	3,602	6.58
木本和伸	2,395	4.37
きもと従業員持株会	2,292	4.19
東レ株式会社	2,104	3.84
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	2,048	3.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,640	2.99
東京中小企業投資育成株式会社	1,484	2.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,088	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,087	1.99

(注) 1. 当社は自己株式を4,622千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
3. 信託銀行等の信託業務に係る株式数については、当社として網羅的に把握することができないため、株主名簿上の名義での保有株式数を記載しております。

株主メモ

- 事業年度
毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会
毎年6月
- 基準日
定時株主総会 3月31日
- 剰余金の配当の基準日
毎年3月31日及び9月30日
- 単元株式数
100株
- 株主名簿管理人
東京都中央区八重洲1丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- 特別口座の場合
郵便物送付先/電話お問合せ先
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)
お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載新聞 日本経済新聞

1株当たり配当

(単位:円)

